

中国語母語話者による 漢語サ変動詞のボイス習得研究の ための予備的考察

庵 功雄

✦要旨

中 国語母語話者は日本語を習得する際、漢語があるため有利になる部分がある。しかし、漢語の知識が負の転移となって習得を阻害する場合もある。本稿では、漢語サ変動詞のボイスを対象に、この問題をアンケート調査に基づいて考察した。その結果、次のようなことが示唆された。

- 1) 非能格自動詞と他動詞では（正用と誤用の）ゆれが見られないのに対し、非対格自動詞ではゆれが見られる。
- 2) 非対格自動詞の中にはゆれが見られるものと見られないものがある。
- 3) 非対格自動詞の他動詞形ではゆれが見られる。
- 4) 受身にはゆれが見られない。
- 5) 使役にはゆれが見られ、和語＞サ変動詞、自動詞＞他動詞、という習得のしやすさの差がある。

✦キーワード

中国語母語話者、ボイス、非対格自動詞、受身、使役

✦ABSTRACT

Japanese learners whose first language is Chinese have an advantage in learning Japanese because there are Sino-Japanese words. However, the knowledge of Sino-Japanese words may cause negative transference and hinder the acquisition. In this paper, this issue is examined by means of questionnaires. The findings are as follows:

- 1) *Suru* is consistently selected in the case of unergative and transitive verbs, 2) For unaccusative verbs, there are two types of which one of them is that *sareru* is selected in a relatively high frequency while the other is that only *suru* is selected, 3) there is inconsistency in "transitive form of unaccusative verbs", 4) there is no inconsistency in passive, 5) there is an inconsistency in causative.

✦KEY WORDS

Japanese learners whose L1 is Chinese, voice, unaccusative verbs, passive, causative

A Preliminary Study of the Acquisition of
Voice in Sino-Japanese Verbs
by Japanese Learners Whose L1 is Chinese
ISAO IORI

1 はじめに

中国語母語話者は全ての日本語学習者の中で最多であり、国内の全学習者の過半数に達する^[註1]。この意味で、中国語母語話者に対する日本語教育は日本語教育において重要な意味を持つ。

中国語は日本語と漢語を共有しているため、非漢字圏の学習者に比べ有利な点がある。中国語の知識が正の転移として働く場合がこれに当たる。しかし、日本語と中国語の間のさまざまなズレによって、中国語の知識が負の転移になることも考えられる^[註2]。本稿ではこの問題について、中国国内の日本語学習者に対するアンケート調査に基づき、漢語サ変動詞によって表されるボイスに関する問題を概観する。

2 問題のありか

上級レベルの学習者（以下、本稿における「学習者」は中国語を母語とする日本語学習者を指すものとする）の作文に次のような誤用がよく見られる（以下（1）～（3）はいずれも一橋大学の上級学習者が書いた文章に見られた実例である）。

- (1) *統計という言葉は、国の状態の意味であり、十七世紀に、ドイツで出現された。
- (2) *『新編日語』は、[中日] 両国の交流が繁盛期を迎える90年代に誕生された。
- (3) 第二は、[たばこの] 税率が高くなると、政府の歳入も高くなる。この部分の税金を肺癌の研究経費に充てて、有効な薬を開発し、医療設備を購入できる。*国民の社会福祉は発展させる。

これらは（広義の）ボイスに関わる誤用と言える^[註3]。本稿の目的はこうした誤用がどのような場合に出現しやすいかをアンケート調査によって明らかにすることにある。

3 先行研究

本稿で取り上げる問題については日中両言語における自他のズレという観点から石・王（1984）、中川（2005）などに記述があるが、言語習得という観点から考察したものは管見の限り、庵（2008）以外に見あたらない（韓国語母語話者を対象としたものには澤邊・安井（2008）などがある）。

4 調査の概要

本稿では次のような内容でアンケート調査を行った（調査実施場所は、学習者については中国黒龍江大学で、実施日時は2008年11月であり、日本語母語話者については名古屋大学と一橋大学で、実施日時は2008年12月である）。

4.1 被験者

被験者の概要は次の通りである。

表1 被験者の概要^[註4]

母語話者	日本国内の大学(院)生26人		
非母語話者	初級 ^[註5]	黒龍江大学	2年生48人
	中級	同	3年生49人
	上級1	同	4年生48人
	上級2	同	大学院生26人

被調査者に1年生を含めなかったのは、調査時点において受身と使役が未習だったためである。

4.2 調査文

調査文は日中で同形同義になる動名詞^[註6]を用いて作成した。同形同義の判断は調査協力者の中国語母語話者（日本語教育専攻の博士課程の大学院生）の内省に

よる。調査対象を同形同義のものに限ったのは、調査文の語彙が未習であるか否かを変数にしないための配慮である。

調査は、以下のような調査文を示し、{ } に入れるのに適切なもの全てに○をつけてもらうという形で行った（複数回答可）。

[01] 彼は自動車事故で女性を {死亡しました／死亡されました／死亡させました}。

なお、調査結果を示す際には紙幅の都合からこれを次のような形で表記する。すなわち、下記のような文において（ ）に「し、され、させ」を入れるという形に読み替える。

[01] 彼は自動車事故で女性を死亡（ ）ました。

5 調査の結果と考察

本稿では次の6項目について習得状況を調査した。

- (4) a. 非対格自動詞（サ変）
- b. 非能格自動詞（サ変）
- c. 他動詞（サ変）
- d. 非対格自動詞の他動詞形（サ変）
- e. 受身（和語、サ変）
- f. 使役（和語、サ変）

以下の小節では各項目ごとに調査結果を示し、若干の考察を加える。

5.1 非対格自動詞

自動詞を、意志性を持たない非対格自動詞とそれを持つ非能格自動詞に分けることは現在広く行われている（ex. 影山1996）。ここで、非対格自動詞とは（GB

理論の枠組みで述べると）S-構造（表層構造）の主語がD-構造（深層構造）において動詞の目的語であるものである。その構造は（5）aのようになる。このD-構造がそのまま表層化すると主語のない文ができてしまうので、表層では目的語が主語の位置に移動して（5）bのようになる。

- (5) a. [_S e [_{VP} 窓 割れる]] （e：空範疇） <D-構造>
- b. [_S 窓_iが [_{VP} t_i 割れる]] （t：移動の痕跡） <S-構造>

次に調査結果と調査文を掲げる。

表2 非対格自動詞

No	調査語	母語 (26)			初級 (48)			中級 (49)			上級1 (48)			上級2 (26)		
		し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
02	一致	◎			◎			◎			◎			◎		
27	発車	◎			○			○			◎			◎		
43	退化	◎			◎			○			◎			◎		
45	停滞	◎			○			◎			○			○		
59	沈黙	◎			◎			◎			◎			◎		
64	失業	◎			○			◎			◎			◎		
79	上昇	◎			○			◎			◎			◎		
82	激増	◎			◎			◎			◎			◎		
88	増大	◎			○			○			◎			◎		
14	進歩	◎			○			○	△		◎			◎		
74	失望	◎			△	△		○			○			○		
71	分裂	◎			○			○	△		◎			○		△
21	減少	◎			△	△		△	△		◎	△		○	△	
85	進行	◎			○			○	△		○			○	△	
51	拡大	◎			○	△		○	△		○	△		△	○	
29	発展	◎			○			○	△		◎	△		○	△	
34	感動	◎			○	△		△	○		○	○		○	○	
11	開通	◎			○			◎			△	○			○	

◎：80%以上が回答、○：50%以上80%未満が回答、△：30%以上50%未満が回答、無印：30%未満が回答（以下の表の記号もこれに準ずる）

(調査文)

[02] 事故の経過は彼の証言と一致 () ています。

[27] 電車は時間通りに発車 () ました。

[43] 外で歩かないと、足が退化 () ます。

[45] パソコンの売り上げが停滞 () ています。

[59] 彼は急に沈黙 () ました。

[64] 彼は失業 () ました。

[79] 地球の温度はこの10年で1度上昇 () ました。

[82] この道路では5年間で事故が増加 () ました。

[88] 戦争の危機が増大 () ました。

[14] ガンの治療法は日に日に進歩 () ています。

[74] 首相の発言に失望 () ました。

[71] 自民党は政策をめぐる分裂 () ました。

[21] この機械の導入で仕事の量が減少 () ました。

[85] パーティは順調に進行 () ました。

[51] この10年間、日本では経済的格差が拡大 () ました。

[29] この分野は急速に発展 () ました。

[34] 彼女の踊りを見て、強く感動 () ました。

[11] 家の近くに長いトンネルが開通 () ました。

表2から非対格自動詞は2種類に分かれることがわかる。すなわち、「される」が回答されないタイプと「される」が回答されるタイプである(どちらのタイプにおいても、母語話者には「される」の回答はほとんど見られない)。どのような場合に「される」が回答されやすくなるかについての考察は別稿に譲るが、このようなタイプの違いが見られることは日中両言語におけるズレの一例として重要な意味を持つと考えられる。

5.2 非能格自動詞

非能格自動詞とは((S)と対応させて述べると)D-構造で既に主語が存在するものである。

- (6) a. [_S 太郎 [_{VP} 走る]] <D-構造>
- b. [_S 太郎が [_{VP} 走る]] <S-構造>

表3 非能格自動詞

No	調査語	母語 (26)			初級 (48)			中級 (49)			上級1 (48)			上級2 (26)		
		し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
18	前進	◎			◎			◎			◎			◎		
24	握手	◎			◎			◎			◎			◎		
57	解答	◎			○			○			○			◎		
63	賛成	◎			◎			◎			◎			◎		
67	移民	◎			◎			◎			◎			◎		
75	外出	◎			◎			◎			◎			◎		
69	反抗	◎			○	△		○			◎			○		
13	集合	◎			○			○	△		◎		△	◎		
09	武装	◎			○	△		○	△		○	△		○		○

(調査文)

[18] 軍隊はゆっくり前進 () していました。

[24] 彼女は彼としっかり握手 () しました。

[57] 彼は10分で全ての問題に解答 () しました。

[63] 私は彼女の意見に賛成 () します。

[67] 彼らは退職後オーストラリアに移民 () しました。

[75] 私は6時から2時間ほど外出 () しました。

[69] 彼女は親に反抗 () で家出しました。

[13] 子どもたちが正門の前に集合 () しています。

[09] 犯人は拳銃で武装 () していました。

表3から非能格自動詞の場合は概ね「する」形(回答としては「し」)が選択されている。これは非対格自動詞(の一部)とははっきりとした対照を示す。

なお、「武装」では「される」の回答が相対的に多いが、これには再帰的な解釈が関与しているように思われる。

5.3 他動詞

本稿では他動詞を「対象のヲ格を目的語としてとる動詞」と定義する。

初めに、調査結果と調査文を示す。

表4 他動詞

No	調査語	母語 (26)			初級 (48)			中級 (49)			上級1 (48)			上級2 (26)		
		し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
03	吸収	◎			◎			◎			◎			◎		
25	輸入	◎			○			◎			◎			◎		
30	収集	◎			◎			◎			◎			◎		
36	意味	◎			◎			◎			◎			◎		
46	警戒	◎			○			○			◎			◎		
56	反省	◎			◎			◎			◎			◎		
90	出版	◎			○			◎			◎			◎		
10	操作	◎			△		○	△	○		○			◎		
15	支給	◎			△	○		△	○		○	△		○		
84	購入	◎			△	△		○	△		○	△		○	△	

(調査文)

- [03] この布は水をよく吸収（ ）ます。
 [25] 日本は中東の産油国から石油を輸入（ ）ています。
 [30] 彼女は多くの国を訪ねて切手を収集（ ）ました。
 [36] 彼が何も言わないということはその案に反対だということを意味（ ）ます。
 [46] A国は外国からの攻撃を警戒（ ）ています。
 [56] 彼は自分の行為を反省（ ）ています。
 [90] 彼女は新しい本を出版（ ）ました。
 [10] あの赤い高級車は彼が操作（ ）ています。
 [15] この短期アルバイトをした人には1日5千円を支給（ ）ます。
 [84] この本は苦勞して購入（ ）ました。

表4から他動詞の場合、概ね「する」形が回答されている（これは庵 (2008) の調査結果とも一致する）。

一方、[10][15][84]では「される」の回答が見られるが、[10][84]はヲ格名詞句が主題化した構文で、表層からヲ格名詞句が消えている。[10][84]で「される」の回答が見られるのはこのためだと考えられる。

5.4 非対格自動詞の他動詞形

ここで問題とするのは次のような表現である。

- (7) 彼はその国の経済を発展させた (*発展した)。
 (8) その国の経済が発展した。
 (7)' 彼は [_s その国の経済が発展す] させた

(7) は (8) に対応する他動詞表現であり、その構造は (7)' のようなものだが、その埋め込み文 (S) の述語が非対格自動詞である。このような表現を「非対格自動詞の他動詞形」と呼ぶことにする。そうすると、(7) からわかるように、この場合は「させる」形の使用が義務的である。

以上のことを踏まえて、調査結果と調査文を見る。

表5 非対格自動詞の他動詞形

No	調査語	母語 (26)			初級 (48)			中級 (49)			上級1 (48)			上級2 (26)		
		し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
01	死亡			◎		△	○			○			○			◎
20	発展			◎			○			◎			◎			◎
58	誕生			◎			○			○			◎			○
35	混乱			◎			○	△		○			○			○
83	安定			◎			○	△		○			◎			○
68	上昇			◎			○			○			○	△		○
48	悪化			◎	△		○	△		○	△		○			○
54	分裂			◎	△		○	△		○	○		○	△		○
07	回転			◎	△		△	○		○			△	○		○
93	増大	△		◎	△		△	○		△	○		△	○		△

(調査文)

- [01] 彼は自動車事故で女性を死亡（ ）ました。
 [20] 彼はこの国の経済を発展（ ）ました。
 [58] 彼は新しい連立政権を誕生（ ）ました。

- [35] 政府は失政で経済を混乱（ ）しました。
 [83] 首相は戦後、政治を安定（ ）しました。
 [68] 彼女は容器を熱して、中の水の温度を上昇（ ）しました。
 [48] その工場は環境を悪化（ ）しました。
 [54] 彼はその政党を分裂（ ）しました。
 [07] 子どもたちがこまを回転（ ）て遊んでいます。
 [93] 政府は国債をたくさん発行して借金を増大（ ）しました。

表5からこのタイプのサ変動詞に関しては学習者の回答がゆれている（「させる」以外に「する」も許容することがある）ことがわかる。これは表4の他動詞の場合と比較すると明らかである。同じく「～を」が前接するにもかかわらず、非対格自動詞の他動詞形の場合は「させる」形を、他動詞の場合は「する」形をそれぞれ使わなければならない。両者の違いは(7)'のような埋め込み文が想定されるか否かであるが、このような違いはおそらく明示的には教えられていないものと思われる。どのように教えればよいかは別途考える必要があるが、教える必要があることは明らかであろう。

5.5 受身（和語、サ変動詞）^[註7]

次に考察するのは受身である。本稿の関心は漢語サ変動詞にあるが、受身自体の習得状況を確認するために和語の場合も調査した。

まず、和語の場合の調査結果と調査文を示す。和語の場合はサ変動詞の場合のような表記の仕方ができないので、調査文をそのまま掲げる。

表6 受身（和語）

No	調査語	母語(26)			初級(48)			中級(49)			上級1(48)			上級2(26)		
		し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
04	殴る		◎			◎			◎			◎			◎	
26	ほめる		◎			◎			◎			◎			◎	
50	知る		◎			◎			◎			◎			◎	
55	使う		◎			◎			◎			◎			◎	

(調査文)^[註8]

- [04] 花子は太郎にひどく（殴りました／殴られました／殴らせました）。
 [26] 発表がうまくできて、先生に（ほめました／ほめられました／ほめさせました）。
 [50] 私たちの家は都市の再開発のために（壊れました／壊されました／壊させました）。
 [55] 日本語の中で「すみません」ということばは広く（使っています／使われています／使わせています）。

次に、サ変動詞の場合の調査結果と調査文を示す。

表7 受身（サ変動詞）

No	調査語	母語(26)			初級(48)			中級(49)			上級1(48)			上級2(26)		
		し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
06	公開		◎			◎			◎			◎			◎	
33	回収		◎			◎			◎			◎			◎	
38	信頼		◎			◎			◎			◎			◎	
41	信仰		◎			○			◎			◎			◎	
47	改良		◎			○			◎			◎			◎	
52	発明		◎			◎			◎			◎			◎	
62	通知		◎			○			◎			◎			◎	
77	禁止		◎			◎			◎			◎			◎	
94	解放		◎			◎			◎			◎			◎	
89	設立	△	○			○			◎		△	○			◎	

(調査文)

- [06] 500年前の壁画が公開（ ）しました。
 [33] 問題用紙は担当の先生によって回収（ ）しました。
 [38] 彼はみんなから信頼（ ）ています。
 [41] キリスト教は世界中で信仰（ ）ています。
 [47] この製品はメーカーによっていろいろ改良（ ）ています。
 [52] 新しい技術が発明（ ）しました。
 [62] 事故の処理が終わったことが通知（ ）しました。
 [77] この国では法律で爆竹を鳴らすことが禁止（ ）ています。
 [94] その町はA国によって解放（ ）しました。
 [89] 新しい通信会社が設立（ ）しました。

表6、表7から、和語とサ変動詞の違いにかかわらず、受身の習得率は極めて高いことがわかる。

5.6 使役（和語、サ変動詞）

最後に考察するのは使役である。この場合も、基本的な習得状況を見るために、和語の場合も考察する。さらに、埋め込み文の述語が自動詞の場合と他動詞の場合に分けて考察する。

まず、自動詞の場合の調査結果と調査文を示す。

表8 使役（自動詞 和語、サ変動詞）

No	調査語	母語 (26)			初級 (48)			中級 (49)			上級1 (48)			上級2 (26)		
		し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
自動詞 和語																
12	行く			◎			○			◎			◎			◎
16	歩く			◎	△		○			◎			○			◎
19	遊ぶ			◎	△		○			◎			◎			◎
44	走る			◎			○			◎			◎			◎
70	笑う			◎		○	△			◎			◎			◎
自動詞 サ変																
05	留学			◎			○			◎			◎			◎
61	前進			◎			○			◎			◎			◎
31	武装			◎			○			○			○	△		○
73	避難			◎	○			△		○	△		○	△		○
95	集合			◎	△		△			◎			○	△		○

(調査文)

自動詞・和語

[12] お母さんは忙しかったので、子どもを買い物に（行きました／行かれました／行かせました）。

[16] 私が子どものころ、父は私を学校まで3km（歩きました／歩かれました／歩かせました）。

[19] 子どもを楽しく（遊ぶ／遊ばれる／遊ばせる）ために、庭付きの家を買いました。

[44] 先生は体育の授業で私たちに運動場を（走りました／走られました／走らせました）。

[70] 李さんはいつも面白い話をしてみんなを（笑います／笑われます／笑わせます）。

自動詞・サ変動詞

[05] 彼女は息子を海外の大学に留学（ ）ました。

[61] 将軍は軍隊をゆっくり前進（ ）ました。

[31] 署長は部下の警察官を武装（ ）ました。

[73] 火災が起こったので客を非常口から避難（ ）ました。

[95] 子どもたちを正門の前に集合（ ）ました。

次に、他動詞の場合の調査結果と調査文を示す。

表9 使役（他動詞 和語、サ変動詞）

No	調査語	母語 (26)			初級 (48)			中級 (49)			上級1 (48)			上級2 (26)		
		し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
他動詞 和語																
65	書く			◎			○			◎			◎			◎
60	飲む			◎	○		△			◎			◎			◎
37	食べる			◎	△		△	△		△			○			○
他動詞 サ変																
87	購入			◎			◎			◎			◎			◎
40	検査			◎		△	△			○			○			◎
66	指揮			◎	△		○	△		○	△		○			○
80	弁護			◎		△	△			○			◎		△	○
92	修理			◎		△	△		△	○		△	○		△	○

(調査文)

他動詞・和語^[註9]

[65] 田中先生は学生に長いレポートを（書きました／書かれました／書かせました）。

[60] 息子が熱を出したので、薬を（飲みました／飲まれました／飲ませました）。

[37] 友だちが家に来たので、得意な料理を（食べました／食べられました／食べさせました）。

他動詞・サ変動詞

[87] 先生は学生にその本を購入（ ）ました。

[40] 私は看護婦に彼女の血液を検査（ ）ました。

[66] 大統領は首相に国の政治を指揮（ ）ています。

[80] 彼は有能な弁護士に被告人を弁護（ ）ました。

[92] 冷蔵庫が壊れたので、電気屋に修理（ ）ました。

表8を見ると、埋め込み文の述語が自動詞の場合、「させ」以外の回答（回答の「ゆれ」）はサ変の方が和語より多い。

一方、表9を表8と比較すると、和語の他動詞の使役では和語の自動詞の使役よりゆれが大きい。また、サ変の他動詞の使役はサ変の自動詞の使役よりゆれが大きい。

以上のことから使役に関して次のような習得のしやすさの順序があることが示唆される。

(9) 自動詞・和語 > 他動詞・和語 ≧ 自動詞・サ変動詞 > 他動詞・サ変動詞

すなわち、和語とサ変動詞ではサ変動詞の場合が、自動詞と他動詞では他動詞の場合が習得しにくいということである。

6 まごめ

本稿では中国語母語話者における漢語サ変動詞のボイスの習得状況をアンケート調査に基づいて考察した。その結果、次のようなことがわかった。

- (10) a. 非対格自動詞には「される」をとりにくいタイプと「される」をとりにやすいタイプがある。
b. 非能格自動詞と他動詞ではほぼ一貫して「する」が使われる。
c. 非対格自動詞の他動詞形ではゆれが見られる。
d. 和語とサ変動詞の違いによらず、受身の習得率は高い。
e. 使役ではゆれが見られ、その習得率には、和語 > サ変動詞、自動詞 > 他動詞という傾向性が見られる。

本稿で取り上げた現象はこれまでほとんど考察の対象となつてこなかったものであるが、(10) a～eから明らかなように、同じサ変動詞の中でも学習者にとって習得しやすいものと習得しにくいものがある（母語話者の回答は一貫している）。今後はこれらの現象の実態をさまざまな手段を用いて明らかにしていく

ことが必要となる。また、その結果に基づいて、これらの項目の効果的な教授法についても考える必要がある。

〈一橋大学〉

〈謝辞〉

本稿をなすに当たって、中国語に関する情報を得る上で劉時珍氏（一橋大学大学院生（博士課程））の全面的な協力を得た。また、改稿に際し、査読者から貴重なコメントをいただいた。いずれも記して、心からの感謝の意を表する。

注

[注1] ……文化庁（2009）によると、学習者数上位20カ国の学習者数全体に占める中国と台湾の合計の学習者数の割合は54.7%（75,014人）である。

[注2] ……なお、本稿で主張したいことは、中国語話者の誤用の全ての原因が負の転移であるということでも、本稿で扱うような誤用が他言語を母語とする学習者には見られないということでもない。あくまで、中国語話者の誤用の「1つの」要因として考えられる負の転移という現象について本格的に考える前の予備的考察として本稿は位置づけられる。

[注3] ……本稿では、受身、使役の他に自他もボイスに含めて考える。このようなボイスのとらえ方については野田（1991）を参照されたい。

[注4] ……調査の都合上、全てのグループにおいて同等数の被調査者を集めることはできなかった。そのため、データを見る際には「上級2」と「母語話者」の人数が他の3つのグループに比して少ないことに注意されたい。

[注5] ……今回の調査では被験者の日本語能力を調査していない。本稿で用いている「初級」「中級」「上級1」「上級2」という名付けはあくまで学習期間に基づく便宜的なものであることをお断りしておく。

[注6] ……動名詞の定義については小林（2004）に従う。

[注7] ……本稿の主な関心はサ変動詞の自他にあるが、その上で「受身」と「使役」を取り上げる意味は次の通りである。すなわち、S.1からS.4で「される」「させる」の回答を調べているが、学習者が「される」「させる」の最も基本的な用法である受身と使役が習得できているかをS.1からS.4の調査のbase lineとして調べたのがS.5とS.6である。

[注8] ……調査時にはこれ以外に「食べる」も用いた。調査文は次の通りである。
[32] 私のケーキは弟に（食べました／食べられました／食べさせました）。
しかし、調査後この文は受身と使役の2つの解釈を持つことに気づいたので、ここでは考察の対象から外す。

[注9] ……調査時にはこれ以外に「作る、使う」も用いた。調査文は次の通りであるが、

これらは構造的に（能動と使役において）多義であることに気づいたので、ここでは調査対象から外す。

[08] 彼はいつも妻に弁当を（作っています／作られています／作らせています）。

[22] 彼がパソコンが壊れたと言うので、私のを（使いました／使われました／使わせました）。

参考文献

- 庵功雄（2008）「漢語サ変動詞の自他に関する一考察」『一橋大学留学生センター紀要』11, pp.47-63. 一橋大学
- 影山太郎（1996）『動詞意味論』ひつじ書房
- 小林英樹（2004）『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房
- 澤邊裕子・安井朱美（2008）「韓国人学習者の日本語漢語動詞の習得に関する一考察」『第二言語としての日本語の習得研究』pp.141-159. 第二言語習得研究会
- 石堅・王建康（1984）「日中同形語の文法的ずれ」中川正之・荒川清秀（編）『日本語と中国語の対照研究 別冊一日文中訳の諸問題』pp.57-82. 日中語対照研究会
- 中川正之（2005）『漢語からみえる世界と世間』岩波書店
- 野田尚史（1991）「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」仁田義雄（編）『日本語のヴォイスと他動性』pp.211-232. くろしお出版
- 文化庁（2009）『平成20年度国内の日本語教育の概要』